

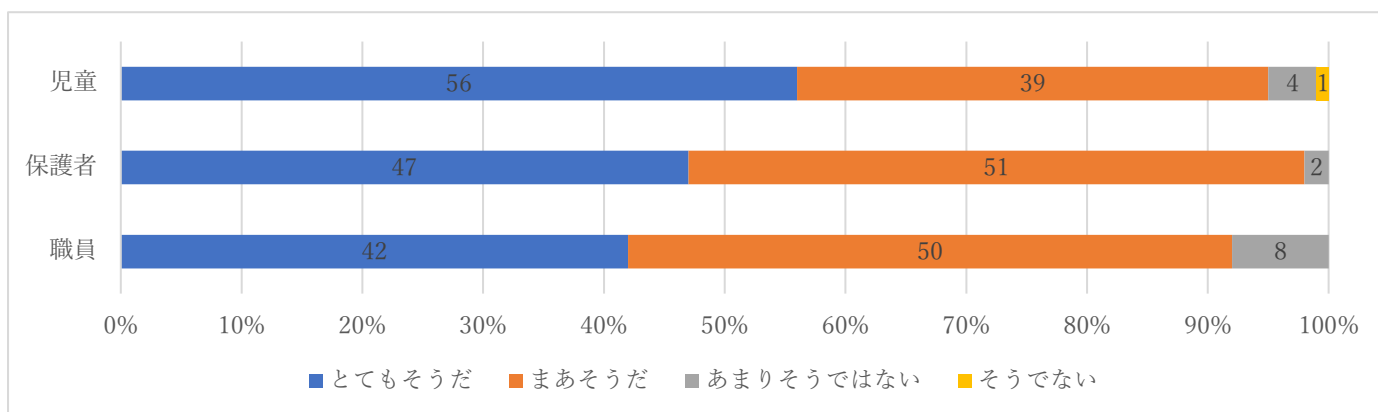
令和5年度 木月小学校学校評価（児童・保護者・職員対象）

集計結果と分析

重点項目1 心が通い合うぬくもりのある学校

設問1

- (児) 自分や周りの人を大切にすることができる
(保) お子さんは、自分や周りの人を大切にしている
(職) 子ども達は、自分や周りの人を大切にしている

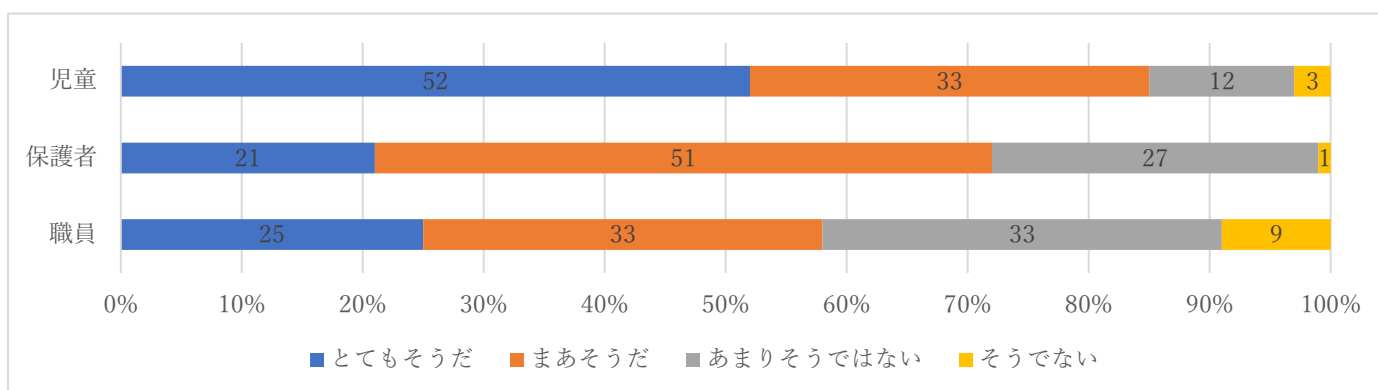


○昨年度に引き続き、児童・保護者・職員の肯定的な意見は、ともに90%を超えております。これは、木月小学校の教育活動が一人ひとりの人権に配慮されていると考えます。

☆昨年度と比較し否定的な意見が数パーセントではありますが増えております。これは行事や異学年交流の機会が拡大し、子どもたち同士が関わる機会が増えてきたことが一因と考えます。機会が増えたことをチャンスととらえ、子どもたちが人権に配慮した活動が展開されるように指導し続けていき、常にすべての子どもが肯定的な回答になることを目指します。

設問2

- (児) 自分からすすんであいさつすることができる
(保) お子さんは、自分から進んであいさつしている
(職) 子ども達は、自分から進んであいさつをしている



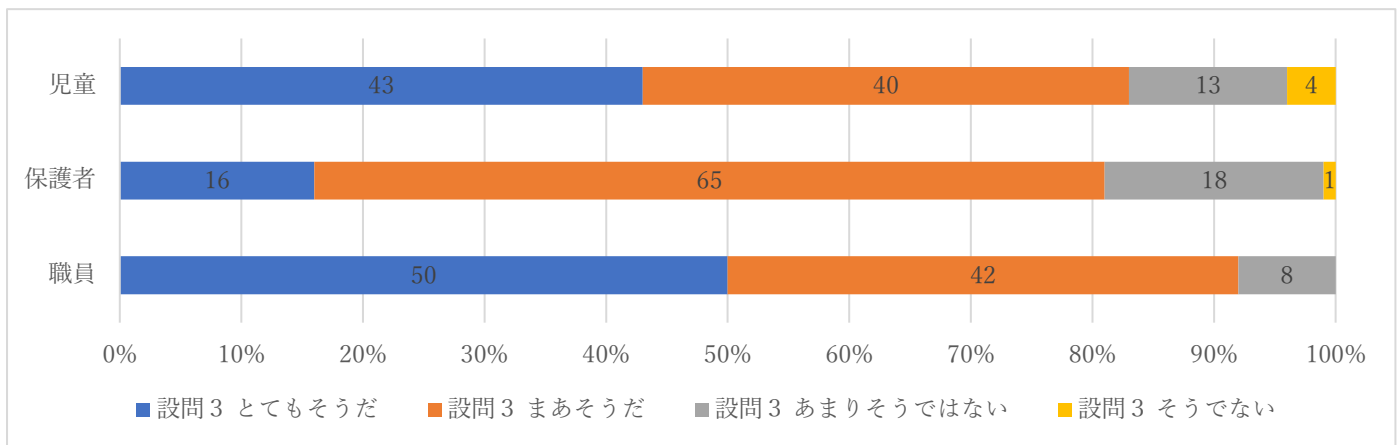
○児童の回答では肯定的な意見が、合わせて85%となっています。学校教育目標の重点の一つであり概ねできていると考えます。引き続き、運営委員会の「あいさつ運動」等と連携し指導していきます。

☆一方、昨年同様に保護者・職員で「そう思う」が低いのは、保護者・職員は不特定多数にしている場合が多いため、ずれが生じるのはやむを得ないことと考えます。しかし、学校生活の中、様々なあいさつの場面を通してTPOに合った挨拶の大切さを指導していきます。

重点項目2 実感をともなって学ぶ学校

設問3

- (児) 学習や生活の中で、自分や友達の良いところを見つけることができる
(保) お子さんは、学校生活を通して自分の良さに気づき、可能性を伸ばそうとしている
(職) 子ども達は、学校生活や学習を通して自分の長所を伸ばすことができている

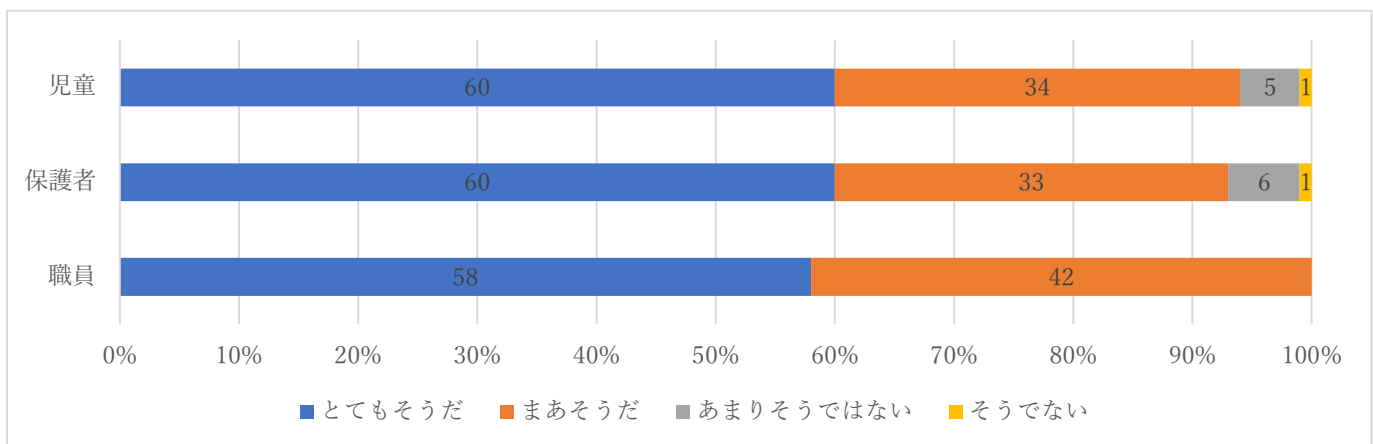


○児童・保護者・職員ともに「とてもそうだ」「まあそうだ」の肯定的な意見の割合は、昨年度の引き続き8割を超え、児童一人一人が自分のよさそして友だちの良さを理解し、生かそうとしていることがうかがえます。来年度も「わかる授業」を目指すとともに、教育活動全般で一人一人が自信をもって活躍できる場を工夫していきます。

☆保護者の回答では、「とてもそうだ」16%と児童・職員（約50%）との認識のずれがあります。保護者にも子どもたちの満足感がお伝えできるよう、情報発信の視点を大切にしていきたいです。また、私たちは一番の情報発信元は子どもたち一人ひとりであると考えます。学校での出来事をお家で話したくなるように、教育活動そのものについても併せて考えていきたいです。

設問4

- (児) GIGA 端末や体験学習を利用して楽しく学ぶことができる
(保) お子さんは、GIGA 端末や体験学習で楽しく学んでいる
(職) 子ども達は、GIGA 端末や体験学習に進んで取り組んでいる



○児童・保護者・職員ともに肯定的な意見が95%を超えております。これは木月小学校全体のタブレット端末の活用が定着し、子どもたちにとって重要なスキルとなっていることを表しております。

☆今後もタブレット端末を活用した効果的な授業のあり方、家庭学習のあり方について検討と実践を続けてきます。一方で、情報モラルについても継続的に指導していきます。

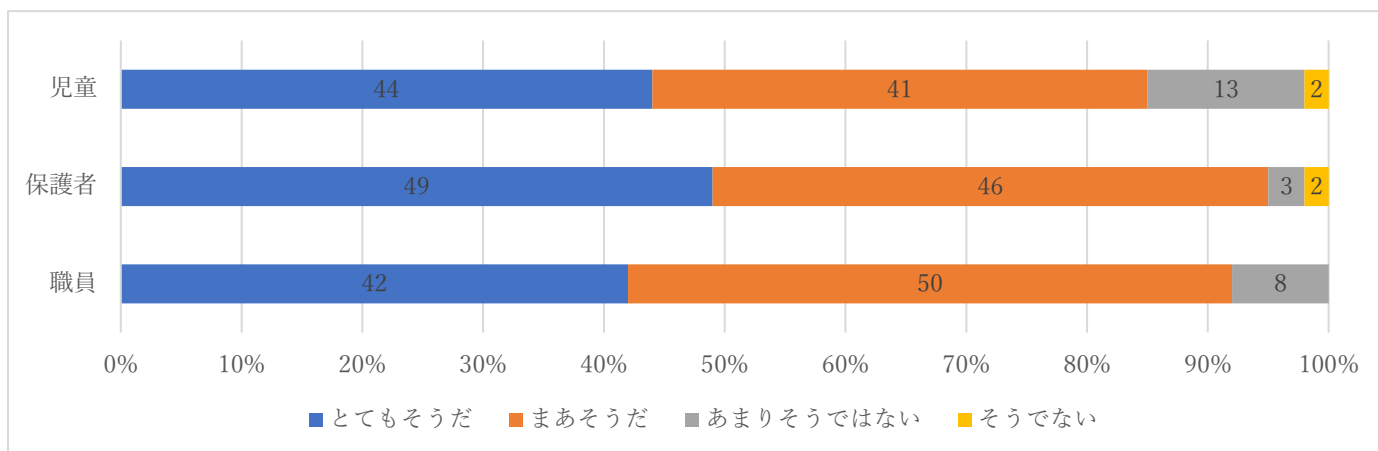
重点項目3 子どもとともに築く学校

設問5

(児) 自分からいろいろなことに意欲的に取り組むことができる

(保) お子さんは、楽しい学校生活を過ごしている

(職) 子ども達は、学習に意欲的に取り組み、自分の役割を果たそうとしている



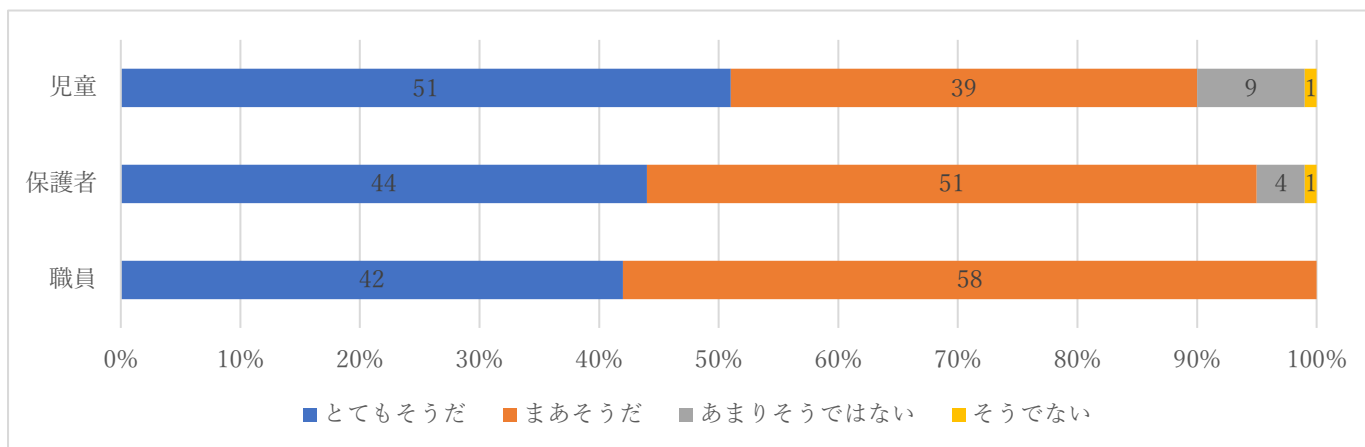
○肯定的な意見は85%を超えており、学校生活に意欲をもって取り組んでいることが表れています。これは、意欲あふれる木月小学校の子どもたちの特徴といえます。今後も子どもたちの特性と甘んじることなくわかる・できるが実感できる授業や誰もが活躍できる場の設定を工夫しながら実践に努めていきます。
☆学校行事や学習活動がほぼ通常通りに行うことができいております。引き続き、自分自身の取り組みはどうかであったか、何が分かったかなどの振り返りを大切に、根拠をもって満足感を高めていく教育活動を展開していきたい。

設問6

(児) みんなで話し合い、協力して仲良く決めることができる

(保) お子さんは、友達と協力して仲良く過ごしている

(職) 子ども達は、自他を認め合い、協力することができる



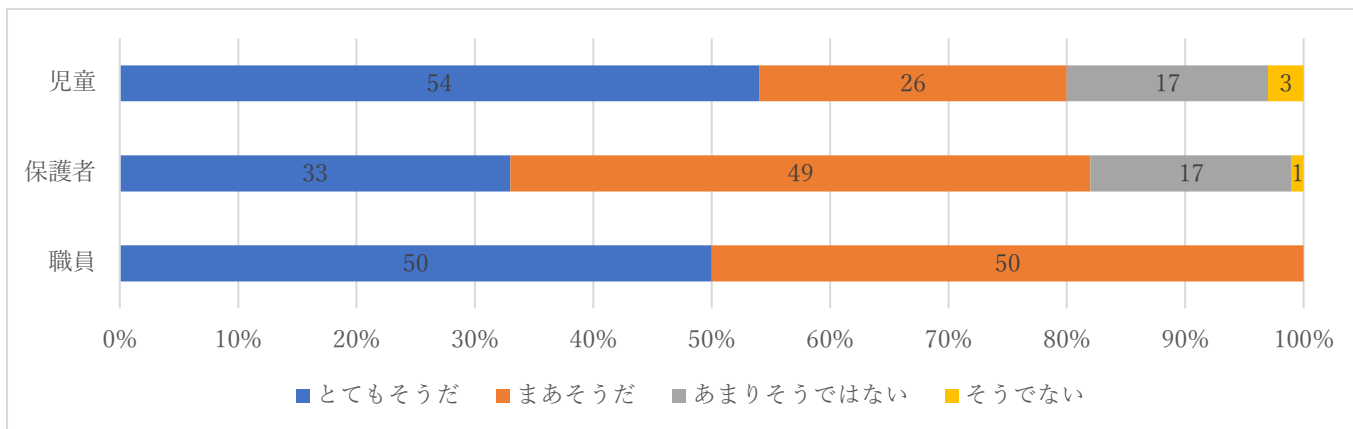
○約90%を超える子ども達が肯定的な回答をしています。共に学び自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりする学習・活動の楽しさを感じていることがうかがえます。

☆今後も学習活動全般で学び合い高め合う活動を継続していきたいです。また、係活動・当番活動の話し合い活動やクラブ・委員会活動の異学年交流など自治的活動の中でも思いっきり活動できる場を工夫・検討していきます。

重点項目4 家庭・地域とともに歩む学校

設問7

- (児) 家族とは、学校のことについてよく話をしている
(保) お子さんは、学校での様子(学習や生活など)について話してくれる
(職) 教育方針や子ども達の学習や生活の様子について家庭や地域に情報発信している

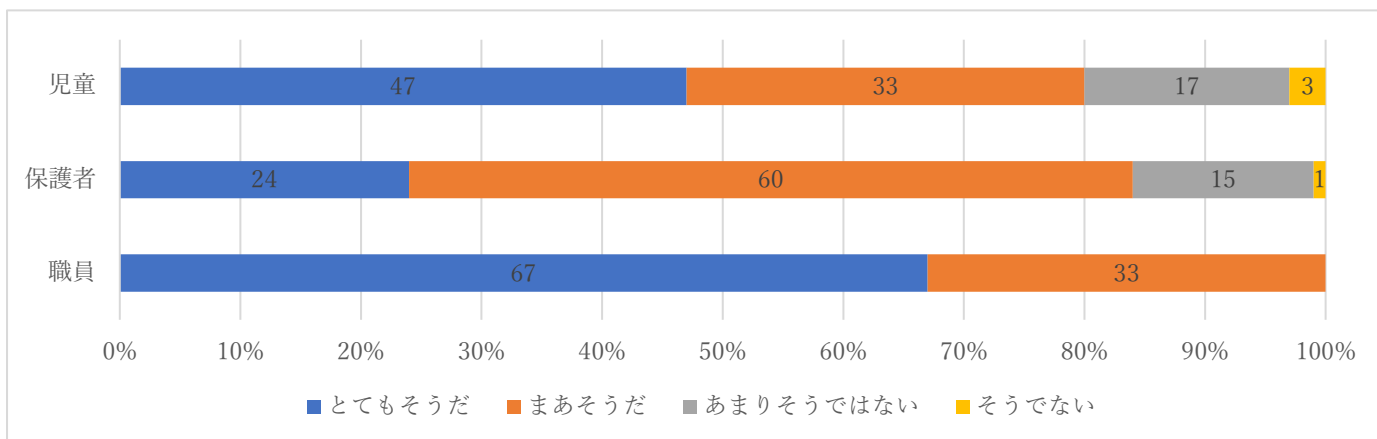


○昨年度に引き続き、児童・保護者の肯定的な回答は80%ほどになっております。今後も十分とは言えませんが、学校だより、学年だより等各種お知らせ、個人面談、懇談会等、子どもたちの教育活動をお伝えする手段として継続していきます。

☆一方、約20%の家庭が学校のことをあまり話題にしていない状況であります。設問2でも記述いたしましたが、私たちは一番の情報発信元は子どもたち一人ひとりであると考えます。学校での出来事をお家で話したくなるように、教育活動そのものについて検討と工夫をしていきたいです。

設問8

- (児) 学習を通して、学校や地域のことにくわしくなった
(保) お子さんは、学習を通して学校や地域の良さを実感している
(職) 子ども達は、学習を通して学校や地域のよさを実感している



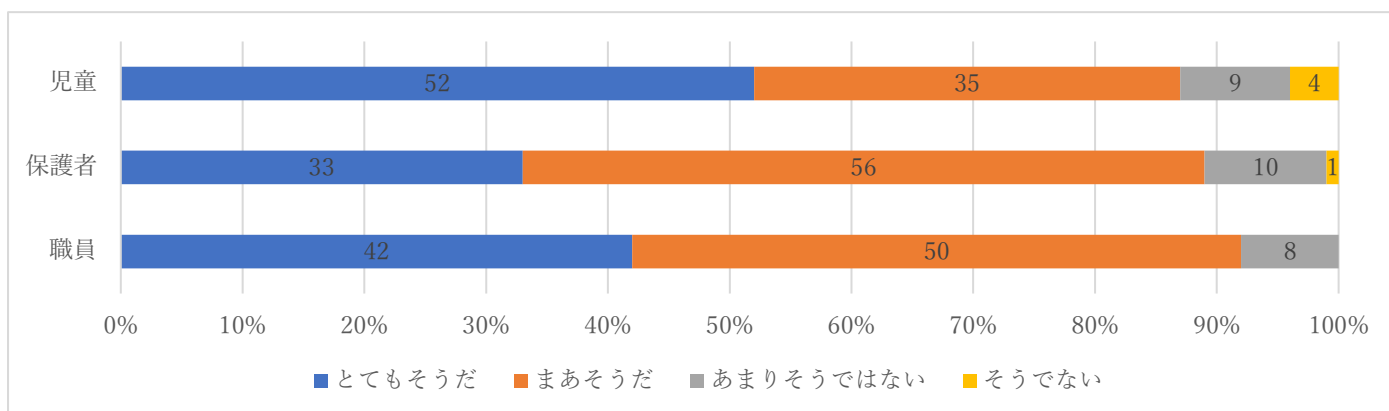
○昨年度同様、児童・保護者の肯定的な意見は80%ほどとなっていることは、地域に興味をもっている結果と考えます。

☆職員の「とてもそうだ」という回答が、昨年度比2倍となっております。手前味噌かもしれませんが、今年度はコロナで中断・縮小していた取り組みをほぼ実施することができ、子どもたちが地域の良さを実感できる活動ができたことの表れではないでしょうか。今後も地域の中で育つ子どもたちを支えるために、地域の方々との深い関わりを続けていきます。

重点項目5 校内研究・研修の充実した学校

設問9

- (児) 学校の授業はわかる・できる・楽しい授業だと思う
(保) お子さんは、学習活動に楽しく取り組んでいる
(職) 子ども達にとってわかる・できる・楽しい授業ができた

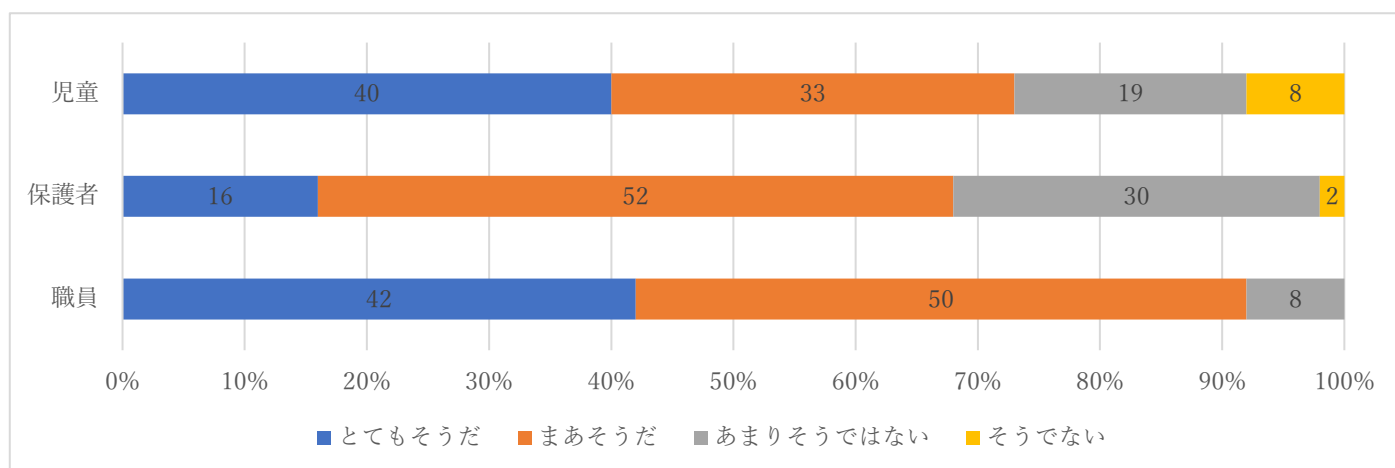


○児童・保護者ともに約90%が肯定的な回答をし、児童の50%超が「とてもそうだ」と回答しております。今後もわかる楽しさ・できる楽しさを感じることが出来る学習指導を考えたり、工夫したりしながら実践に努めます。

☆一方、1割程度の児童が「あまりそうではない」「そうでない」と回答しています。少人数指導を実践するなど分からないことがあれば、解決できる環境を整えてきました。今後も安心して一人一人の子どもたちが学習を進めていけるような手立てをとってまいります。

設問10

- (児) 自分の課題を調べ、わかったことを発表したり伝えたりすることができる
(保) お子さんは、問題意識を持ち、意欲的に問題解決しようとしている
(職) 子ども達は、進んで課題を解決しわかりやすく伝えようとしている



○昨年度の児童の肯定的な意見が80%を超えておりましたが、今年度は約10%減の約70%にとどまってしまいました。木月小学校では、今年度から「問題意識を持ち自ら学び考える子」を目指して校内研究に取り組んでおります。その成果が十分に発揮できていないのではないかと考えます。

☆一方、職員は90%以上が肯定的な回答をしており、子どもたちと職員の認識のずれが生じております。これは、指導者が感じているようには、子どもたち自身が自ら学ぶとする意欲や個々に課題を見つけ解決しようとする意欲を育てていることを十分に感じる事ができなかった結果と受け止めています。今後は、問題意識を持ち自ら学ぶ学習活動の機会の一つ一つを大切に、じっくりとできたことを振り返り子どもたち自身が活動の成果を十分に感じる活動の改善と振り返りの充実を図ってまいります。

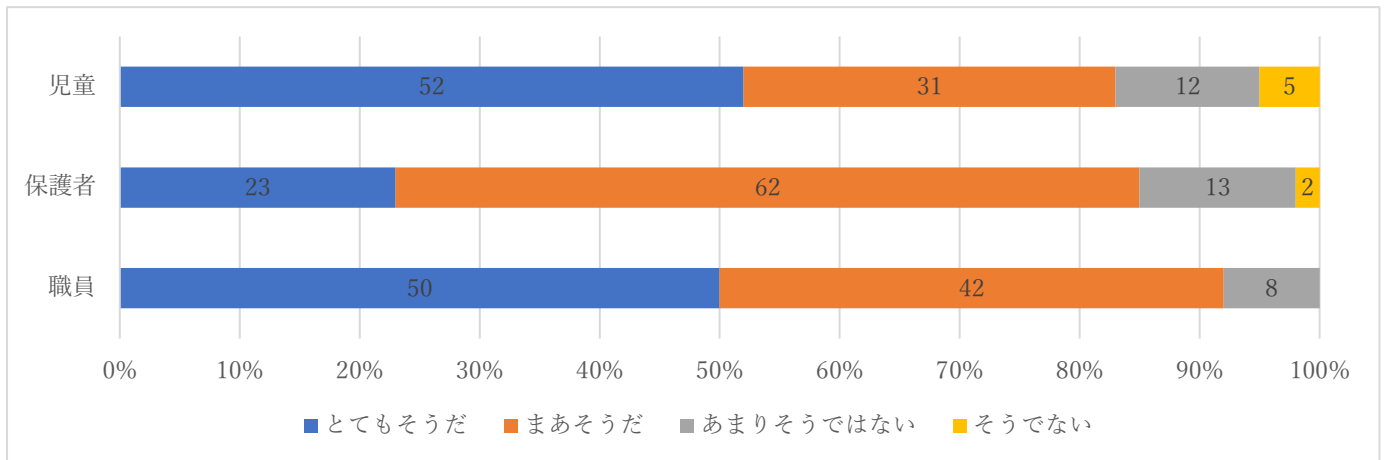
重点項目6 明るく健康的な学校

設問11

(児) 進んで体を動かしたり、生活リズムに気をつけたりして健康的にすごしている

(保) お子さんは、健康に気をつけ規則正しい生活をしている

(職) 子ども達は、生活リズムや健康に気をつけて生活している



〇コロナ禍が開け、なお児童・保護者の肯定的な意見が80%を超えています。進んで運動したり、生活のリズムに気をつけたりする意識が子どもたちに定着しているととらえます。多くの子どもたちが休み時間も外に出て遊ぶ姿が見られます。

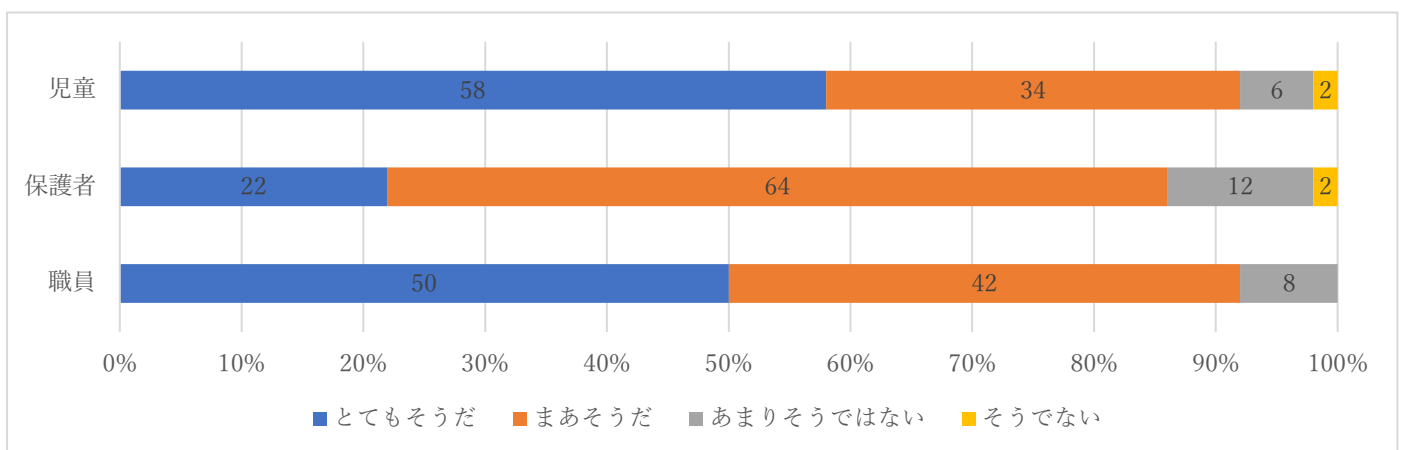
☆一方、まったく外に出ない子どもが見受けられるので、引き続き健康と運動の指導を繰り返し指導していきます。

設問12

(児) 災害や非常時、また感染症対策で安全な行動ができる

(保) お子さんは、災害や感染予防等に気をつけて生活している

(職) 子ども達は、災害や感染症対策などに進んで取り組んでいる



〇児童は90%超が「とてもそうだ」「まあそうだ」と肯定的に感じています。防災や感染予防に対する意識の高さがうかがえます。引き続き、木月小学校では交通安全や防災・防犯指導、感染症への対策をしていきます。

☆一方、保護者の「とてもそう思う」という回答が、昨年度と比べ約10%減少しています。これは、交通安全や防災に関する対策は各家庭と連携して行っていかなければならないことを物語っています。子どもたち自身に意識や知識はあっても、学校内外に関わらず行動として定着していくためには、各家庭の力が不可欠です。今後も安心・安全な学校を目指し、より一層の努力をしてまいります。引き続き保護者の皆様のご協力をお願いいたします。